

## 学術フォーラムの概要について（事後報告）

- 1 名称：危機に瀕する学術情報の現状とその将来
- 2 日本学術会議以外の共同主催団体等：
  - ・後援：文部科学省、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所、大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)、国公立大学図書館協力委員会、国立大学協会
- 3 開催日時：平成 29 年 5 月 18 日（木） 13 時 00 分～18 時 00 分
- 4 開催場所：日本学術会議講堂
- 5 開催趣旨：

平成 22 年（2010）年 8 月に提言「学術誌問題の解決に向けて-「包括的学術誌コンソーシアム」の創設-」が公表され、学術活動を支える柱である学術誌へのアクセスと学術誌による発信に関する課題および方向性が整理された。また提言にあるコンソーシアムも設立された。しかし、学術情報を取り巻く情勢は電子ジャーナル価格の上昇や国立大学運営費交付金の漸減に伴って変化してきており、アクセスの維持も容易ではなくなっている。今後の学術情報をどのように取り扱い、どのようにオープンアクセスやオープンサイエンスへとつなげていくのか、学術情報にまつわる現状と明らかにされた課題および将来を考えるため学術フォーラムを開催した。
- 6 参加人数：
  - 講演者等：11 名
  - その他の参加者：237 名
- 7 特記事項：
  - ・アンケート集計の結果、大変良かった、まあまあ良かったの合計が 85%であった。加えて、多くの方が講演資料の入手を希望していることから、各講演者に公開版資料を依頼し、順次日本学術会議ホームページの学術フォーラム案内ページに掲載することとした。
  - ・『学術の動向』9月号に本フォーラムの内容を特集として掲載予定である。